

# 駒木敏教授 著述目録

## 〈著書〉

〔単著〕『古代文学と民話の方法』	笠間書院	79	(昭54)	2
〔編著〕『神謡・神話・物語―儀礼と伝承―』	桜楓社	87	(昭62)	3
〔共著〕『儀礼言語の様式』	桜楓社	89	(平1)	4
〔共著〕『古代都市文学論』	翰林書房	94	(平6)	11
〔単著〕『和歌の生成と機構』	和泉書院	99	(平11)	3

## 〈論文〉

挽歌の成立と展開―寿歌・相聞歌との間―	『同志社国文学』 4号	69	(昭44)	3
人麿宮廷挽歌の位置と方法―日並・高市両挽歌をめぐって―	『同志社国文学』 5・6合併号	71	(昭46)	3
靈異記説話の性格―民話性をめぐって―	『同志社国文学』 8号	73	(昭48)	2
靈異記における観音信仰説話	『同志社国文学』 9号	74	(昭49)	2
万葉集初期長歌論序説	『聖徳学園岐阜教育大学紀要』 第1集	74	(昭49)	8
〔日本靈異記〕と民話の方法	日本文学協会『日本文学』 24巻6号	75	(昭50)	6
言挙げと言忌み―万葉集羈旅離別歌二、三の解釈をめぐって―	『同志社国文学』 11号	76	(昭51)	2
神話と民話の世界	広川勝美編『神話・禁忌・漂泊』 桜楓社	76	(昭51)	5
〔色に出づ〕考―慣用句と発想法―	万葉学会『万葉』 92号	76	(昭51)	8
大伴坂上郎女の怨恨歌	伊藤博・稲岡耕二編『万葉集を学ぶ 第3集』 有斐閣	78	(昭53)	3

日常を超えるコトバ―昔ガタリの方法と構造―	土橋寛監修・広川勝美編『民間伝承集成第1巻 民話』創成記	78	(昭53)	6
わらべ唄の文化圏―伝承社会のハレとケ―	土橋寛監修・広川勝美編『民間伝承集成第3巻 わらべ唄』創成記	78	(昭53)	9
古代歌謡におけるウタとカタリ―神語歌形成への見わたし―	日本文学協会『日本文学』27巻11号	78	(昭53)	11
語りのにない手	土橋寛編『講座日本の古代信仰第4巻 呪禱と文学』学生社	79	(昭54)	11
五三七結解型長歌の形成	上田正昭・南波浩編『日本古代論集』笠間書院	80	(昭55)	9
『日本霊異記』の自伝―二つの夢―	日本文学協会『日本文学』30巻2号	81	(昭56)	2
〔序詞〕二つ	『同志社国文学』22号。『国文学年次別論文集・上代 昭和58年』に転載	83	(昭58)	3
額田王の一首―初期万葉歌の側面―	同志社大学『人文学』140号。『国文学年次別論文集・上代 昭和59年』に転載	84	(昭59)	3
カミのトボス	広川勝美編『伝承の神話学』人文書院	84	(昭59)	10
古代歌謡の様式―歌掛きの位相―	日本文学協会『日本文学』34巻4号	85	(昭60)	4
序詞・枕詞	『国文学 解釈と教材の研究』30巻13号	85	(昭60)	11
枕詞と地名の始原―主として『風土記』について―	『同志社国文学』26号。『国文学年次別論文集・上代 昭和61年』に転載	86	(昭61)	3
枕詞―その始原性から和歌的修辭法への位相―	和歌文学会『論集 和歌とレトリック』笠間書院	86	(昭61)	9
散文と歌の交渉	『国文学 解釈と教材の研究』32巻2号	87	(昭62)	1
風土記における伝承の位相	日本文学協会『日本文学講座第3巻 神話・説話』大修館書店	87	(昭62)	7
太陽の方位―南島歌謡のコスモロジー―	同志社大学『人文学』146号。『国文学年次別論文集・上代Ⅰ 昭和63年』に転載	88	(昭63)	3
言語の呪性と様式―問答歌の事例に即して―	土橋寛編『古代文学の様式と機能』桜楓社	88	(昭63)	4
歌謡と起源説話―雄略記の場合―	同志社大学『人文学』147号。『国文学年次別論文集・上代Ⅰ 平成1年』に転載	89	(平1)	3
言葉の表現と儀礼の表現―ウケヒの様式を通して―	説話・伝承学会『説話・伝承学』89 説話・伝承とことば』桜楓社	90	(平2)	4
序詞の変容―羈旅歌と地名―	坂本信幸ほか編『論集 古代の歌と説話』和泉書院	90	(平2)	11

- 「天降り」と「国造り」——出雲国風土記の世界観—— 『国語と国文学』 68巻5号 91(平3) 5
- 仁徳天皇の物語 『国文学 解釈と教材の研究』 36巻8号 91(平3) 6
- 万葉集の歌体 稲岡耕二編『和歌文学講座第2巻 万葉集I』勉誠社 92(平4) 9
- 小竹の葉のさやぎ——『万葉集』巻二・一三三番歌解—— 『同志社国文学』 38号。『国文学年次別論文集・上代Ⅱ 平成4年』に転載 93(平5) 3
- 物語における歌謡の位相 古事記学会『古事記研究大系9 古事記の歌』高科書店 94(平6) 2
- 万葉集における人名表現の傾向 小島憲之監修、伊藤博・稲岡耕二編『万葉集研究 第二〇集』塙書房 94(平6) 6
- みやびとひなび——万葉集の宴席歌を通して—— 古橋信孝ほか編『古代文学講座3 都と村』勉誠社 94(平6) 9
- 記紀の物語歌に関する覚書——人名呼称と人称転換—— 『同志社国文学』 41号 94(平6) 11
- 「雪中梅歌」考——四季部立歌巻の形成—— 伊井春樹ほか編『源氏物語と古代世界』新典社 97(平9) 10
- 水城での別れの歌 神野志隆光・坂本信幸編『万葉の歌人と作品第四巻 大伴旅人、山上憶良』和泉書院 00(平12) 5
- 歌謡における人称表現——「記」「紀」の物語歌謡の性格—— 歌謡学会『日本歌謡研究大系上巻 歌謡とは何か』和泉書院 03(平15) 5
- 笠女郎の相聞歌——面影に見ゆといふものを—— 神野志隆光・坂本信幸編『万葉の歌人と作品第十巻 大伴坂上郎女、後期万葉の女性歌人たち』和泉書院 04(平16) 10
- 歌謡・和歌における反復表現と指示語——序歌形成の一面—— 『同志社国文学』 61号 04(平16) 11
- 「古事記」国作り神の歌謡——八島国と高志国—— 『同志社国文学』 62号。『国文学年次別論文集・上代 平成17年』に転載 05(平17) 3
- 〈歌謡物語〉に見る心神治世の物語 『国文学 解釈と教材の研究』 51巻1号 06(平18) 1
- 『万葉集』相聞歌の一位相——相手を「人」と呼ぶ歌の分析を通して—— 『同志社国文学』 66号。『国文学年次別論文集・上代 平成19年』に転載 07(平19) 3
- 記された歌謡——三句体詞形に見る古事記の歌謡観——

歌謡の歌詞と三句体詞形について―『琴歌譜』歌謡を手がかりに―	『同志社国文学』70号	09 (平21)	3
倭の神の国作り―蛇神の原像を探る―	同志社大学『人文学』187号	11 (平23)	3
ホムチワケ (本牟智和氣) 御子の物語―『古事記』における天皇の祭祀―	『同志社国文学』78号	13 (平25)	3
〈その他〉			
〈紹介〉土橋寛著『古代歌謡全注釈 日本書紀編』	『同志社国文学』12号	76 (昭51)	3
〈書評〉守屋俊彦著『古事記研究―古代伝承と歌謡―』	古代学協会編『古代文化』第34巻3号	82 (昭57)	3
〈項目執筆〉「神話」「呪術」「歌経標式」「藤原浜成」など	谷山茂ほか編『日本文学史辞典』京都書房	82 (昭57)	9
〈転載〉「古代歌謡におけるウタとカタリ―神語歌形成への見わたし―」	土井清民編『日本文学研究資料新集 古事記・王権と語り』有精堂	86 (昭61)	7
〈紹介〉広川勝美著『犯しと異人―むかし話の基層―』	『同志社時報』81号	86 (昭61)	11
〈書評〉宮岡薫氏著『古代歌謡の構造』を読む			
古代人の「クニ」意識	立命館大学『論究日本文学』51号。『国文学年次別論文集・上代 昭和63年』転載	88 (昭63)	5
〈書評〉本田義寿著『記紀万葉の伝承と芸能』を読む	『出版ニュース』1989年9月中旬号	89 (平1)	8
〈学会展望〉上代歌謡 (歌謡物語を含む)	万葉学会『万葉』142号	92 (平4)	4
〈項目執筆〉「万葉百首 額田王一八番、二〇番歌」	全国大学国語国文学会編『文学・語学』136号	92 (平4)	12
〈書評〉近藤信義著『音喩論―古代和歌の表現と技法―』	稲岡耕二編『別冊国文学 万葉集事典』	93 (平5)	8
〈紹介〉笠井昌昭著『虫と日本文化』	『国語と国文学』75巻8号	98 (平10)	8
〈書評〉居駒永幸著『古代の歌と叙事文芸史』	『同志社時報』107号	99 (平11)	3
	『国学院雑誌』平成15年8月号	03 (平15)	8

〈項目執筆〉 笠女郎の三九六、五九四、六〇八番歌

神野志隆光・坂本信幸編『セミナー万葉の歌人と作品第十二卷 万葉秀歌抄』和泉書院

〈紹介〉 寺川真知夫著『古事記神話の研究』

『同志社時報』129号

10 (平22)

4

〈紹介〉 植木朝子著『梁塵秘抄の世界―中世を映す歌謡―』

『同志社時報』130号

10 (平22)

10